

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部 長	森朝 紀文
次 長	出山 恭隆
主 幹	中川 直樹
主 査	高橋 和代
主 査	泉原 里絵
主 査	安井 結香里
主 査	若林 里絵
主 査	西村 亜希子 (12月退職)
主 査	西井 拓人
	河津 敏明
	松浪 美和
	宮本 紅喜
	北庄司 敦久
	宮本 訓子
	小垣 睦
	南 佳代
	山道 麻葉
	上田 祥子
	伊藤 健二
	中川 貴弘
	籾内 新平
	松本 光司
	越山 晶弘
	岡本 典久
	西田 愉可利 (7月入職)
	奥田 剛史 (8月入職)
	小林 洋平 (2月入職)

—概要—

薬剤科では、調剤、注射薬の無菌混合調製や服薬指導等のさまざまな業務を行っている。特に、2012年度の診療報酬の改定により、病院薬剤師の念願であった病棟薬剤業務実施加算が新設されたのを受け、全病棟に病棟専任薬剤師を配置し、オーダ入力支援等の新しい業務を実施している。

厚生労働省医政局通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が発出され、薬剤師がチーム医療に参画することが求められており、当院では感染対策チーム (ICT)、栄養サポートチーム (NST)、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームに積極的に参加し、医師、看護師等と共に多職種で病棟ラウンドを実施している。特に、抗菌薬適正使用支援チーム (AST) では、専任薬剤師を配置し、薬の専門家として積極的に適正使用を推進している。また、生活習慣病予防教室にも参加し、薬剤師が薬に関する患者向けの講習会を行っている。薬剤科では今後とも、質の高い病棟薬剤業務の実践と有効かつ安全な薬物療法を提供するため、以下の4項目を基本的な理念としている。

《基本理念》

1. 薬の専門家として、患者さんにとって有益な薬物療法を提供する。
2. 薬によるインシデント・アクシデントを減少させ、安全な薬物療法を提供する。
3. 臨床薬剤師として医療チームに貢献する。
4. 薬剤師の職能を高めるため、研究心を持って日々努力する。

—実績—

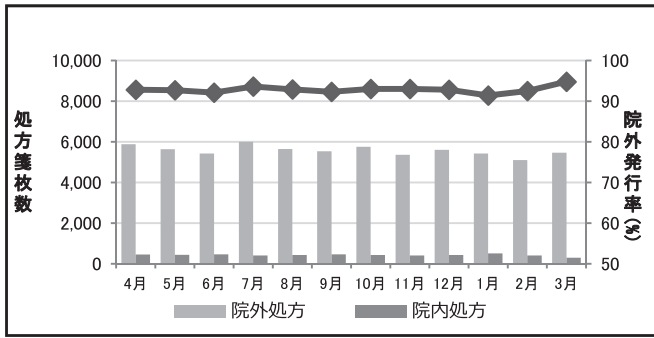
2000年4月より、病院運営の一環として、「医薬分業の徹底と薬剤科病棟業務の充実」に基づき、全面院外処方せん発行を行い、2019年度月平均の発行率は92.8%を達成している。(グラフ1)

薬剤管理指導業務における服薬指導実施患者数及び指導件数については、月平均の指導患者数774名、指導件数906件(退院加算210件)と順調な推移を示している。(グラフ2)

また、無菌製剤処理加算の施設基準を2001年3月に取得し、TPN製剤の調製を行っているが、2010年8月より一般の点滴を含めた全ての注射薬の無菌混合調製を行っている。2019年度における混合調製の実績として、調製本数は月平均877本、年間10,522本となっている。(グラフ3)

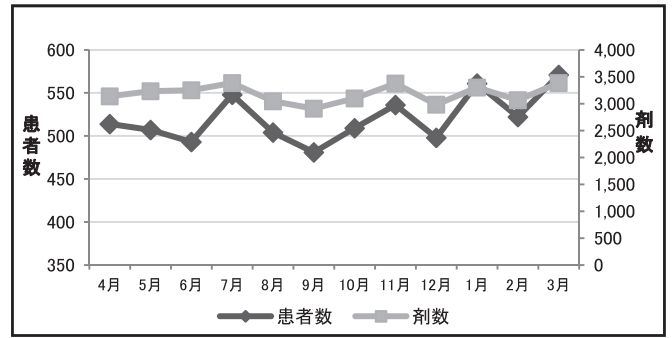
次に、外来の抗がん薬の混合調製を2002年8月より開始し、2004年12月より外来・入院の全患者について、抗がん薬のレジメンの一元管理と調製を実施している。2019年度における実績は月平均337名、年間4,045名の患者に調製を行い、調製本数は月平均489本、年間5,865本となっている。(グラフ4) また、2014年4月より外来がん治療センターにがん薬物療法認定薬剤師を配置し、がん患者指導料を月平均約43件算定している。

さらに、患者サポートセンター内で、全ての入院患者における薬剤師による持参薬の鑑別を、2008年4月より開始している。2019年度における実績は月平均520人、3,180剤となった。(グラフ5)



(グラフ1) 2019年度処方箋枚数と院外処方箋発行率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院外発行率	92.8	92.7	92.1	93.6	92.9	92.3	93.0	93.0	92.8	91.4	92.5	94.8
院外処方箋枚数	5,884	5,641	5,425	6,003	5,644	5,539	5,752	5,363	5,608	5,422	5,103	5,464
院内処方箋枚数	454	444	466	410	431	463	431	405	432	508	411	300



(グラフ5) 2019年度持参薬鑑別患者数・剤数

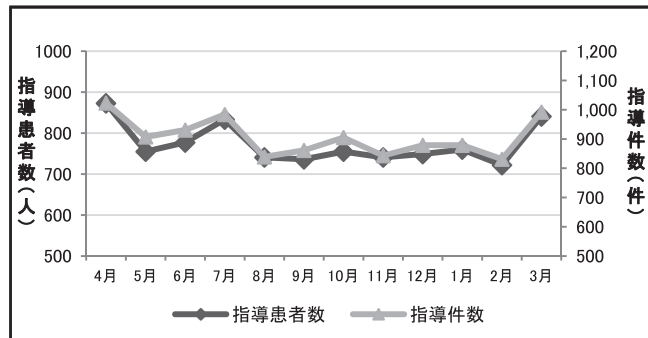
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	514	507	493	548	504	481	509	536	498	561	522	571
剤数	3,138	3,234	3,250	3,383	3,044	2,908	3,098	3,375	2,982	3,300	3,067	3,385

—今年度の成果と反省点—

今年度は、退職者、育児休暇者の補充を迅速にすることができず、昨年度と同様に薬剤師の人員確保に苦労した。そのため、集中治療室における病棟薬剤業務実施加算2の算定を復活することができなかったが、薬剤管理指導件数は例年の件数を維持することができた。

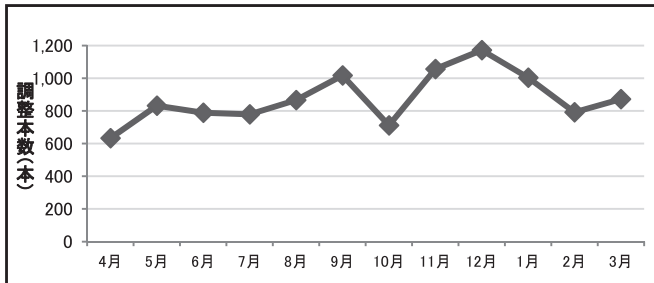
—来年度への抱負—

来年度は診療報酬が改定される年であるため、新しく評価される加算は、すぐに算定できるように取り組む。そのために、薬剤師の人員不足がないよう計画性を持って採用する予定である。また、薬剤管理指導業務は、指導件数を増加させるのみではなく質を向上させる取り組みを行うとともに、外来がん治療センターでの薬剤師による患者指導を充実させたい。



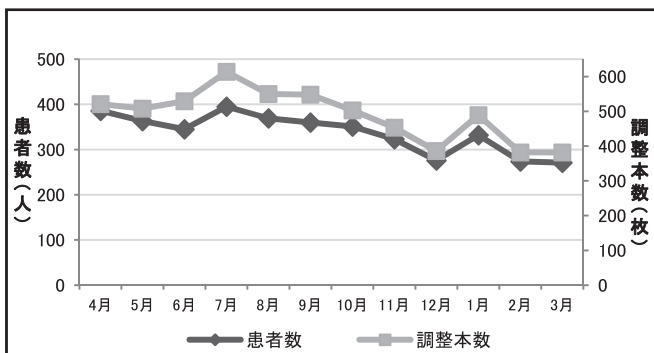
(グラフ2) 2019年度服薬指導実施患者数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導患者数	873	755	777	833	741	736	755	741	749	760	722	841
指導件数	1,023	907	931	984	839	861	905	843	879	879	831	992



(グラフ3) 2019年度注射薬無菌調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調製本数	633	832	789	779	866	1,017	711	1,056	1,172	1,003	792	872



(グラフ4) 2019年度抗がん剤調製患者数・本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	386	363	345	395	369	360	351	323	276	332	274	271
調製本数	521	508	529	614	550	548	503	453	386	489	382	382

